

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年4月9日)

### 里仁第四

19 子曰く、父母在すときは遠く遊ばず。遊ぶに必ず方有り。

孔子が言うには、両親が活着ている時にはあまり遠くへ出かけない方がよい。何処かへ出かける時には必ず、行き先をはっきりして行くべきである。

今の場合ですと、外国に当たるかと思ひます。人間、だんだん具合が悪くなって病院に入ると、最終的に管(くだ)人間になってしまうことが多いですね。私の叔父も今、入院しております。そういう時には、子供たちはとても遠くへ行く気持ちにはならないと感じてひます。

両親の具合が悪くなったら、遠くへ行こうという気持ちすらおきないものだ。それを構わず出かけていくようであれば、親不孝者であると考えればよいでしょう。

20 子曰く、三年 父の道を改むること無きは、孝と謂うべし。

孔子が言うには、父親が亡くなって三年間は喪に服すものであるから、その間は、父親のやって来たことを根底から変えるなどということはやってはいけない。それをずっと守っていく者は、親孝行と言ってよかろう。

中国の場合、国が代わる時には、前の天子を殺して新しい天子に代わるという歴史をもっています。前の国を倒して、その後三年間、前の国のまつりごとをずっと守っていくなどということは、現実にはしてひないわけです。こちらへんは孔子の、こうあるべきという理想がかなり入っていると思ひます。現実には今の日本でも、父親が亡くなった後、父親のやってきたものを変えないでいることは難しいと思ひます。

21 子曰く、父母の年は知らざるべからず。一は則ち以て喜び、一は則ち以て懼る。

孔子が言うには、両親の年は知っていなければならぬ。一つは両親の長命を喜び、もう一つは、両親がいつ亡くなるか分からないことを懼れる。

親が80歳・90歳になったなら、いつ何があってもおかしくはないと言われます。両面あるということで、両親の年は常に承知していなければいけないと読めばよいでしょう。

鳩山さんが国会で、与謝野馨さんに引っ掛けられて、「私が母親に 1500 万貰っているかどうか、母親に聞いてくれ」と興奮して答弁したことがありました。周りからなだめられてすぐに撤回していました。母親に聞かれると具合が悪いのだろうと普通は思います。ただこの文章を読むと、母親の年を自分は承知しているので刺激を与えたくない、という孝行の部分も入っていたのかなと思います。

22 <sup>しいわ</sup>子曰く、<sup>いにしえ</sup>古者、<sup>げん</sup>言を之出ださざるは、<sup>これい</sup>、<sup>み</sup>躬の<sup>あよ</sup>速ばざらんことを<sup>は</sup>恥ずればなり。

孔子が言うには、昔の人は簡単に約束はしなかった。口に出して、実行できなかつたら恥ずかしいということが身に沁みているので、昔の人は簡単にああたこうだと言わない。

鳩山さんも普天間問題ということを行ったが為に、今、自分で自分の首を締めて、5月に退陣せざるを得なっている状況になったと感じます。

本日は以上です。有難うございました。